

平成二十一年十一月七日(土)

## 創立百周年記念式典に

### ぜひご参加ください

明治四十四年四月十二日に開校した我が母校は本年度終了とともに創立百周年、小金井校開校五十周年を迎えることとなりました。

これを祝い、また将来の発展を願って、本校主催に依る記念式典が左記要領にて執り行われることになりました。

有り難いことに同窓会にもご招待のお声を掛けていただきましたので、皆さんとともにお祝いに駆けつけたいと思います。

学校側では、卒業生である我が同窓会員 倉本聰さんに記念講演を依頼し、お楽しみにとのことです。また、式後の祝賀会への参加も是非どうぞ、とご連絡をいただいています。

●返信用はがきを同封いたしますので、ご都合のよろしい方は是非、参加をご検討ください。

なお、同窓会としては当日、会員専用の受付を設営し、お一人五千円の参加費を徴収させていただきますのでよろしくお願ひします。(同窓会からのお祝いに充当します。)

また、同窓会としては別途百周年の記念植樹を計画、現在具体的な企画を進めています。どうぞ、お楽しみに。

#### 記

創立百周年・開校五十周年記念式典

平成二十一年十一月七日(土)

第一部 記念式典 10:00より11:30

小金井校舎体育館にて

一、校長挨拶(開会の言葉)

一、来賓祝辞

東京学芸大学学長

鷲山恭彦学長

保護者と教師の会会長

撫子の会会長

吉川 勝  
金子修也

一、スライド上映

一、校歌

一、児童代表の話

一、副校長挨拶(閉会の言葉)

二年部 倉本聰氏 記念講演 14:00より15:30

小金井校舎体育館にて

第三部 祝賀会 16:30より

大学第二むさしのホールにて

六年代表児童



# 小学校は

# エンピツの

# 匂い

東京学芸大学 附属

小金井小学校 同窓会

# 撫子の会

会報

# 10

号

●もくじ

1 100・50周年記念

2 会長あいさつ

3 母校からのメッセージ

4 特集「恩師を語る」

5 第七回総会報告

6 お知らせ



右の写真は一九六六(一七)年頃に撮ったものです。磯野氏(昭和二十五年豊島卒)より寄贈



# 香<sup>かぐわ</sup>しい校風がそよぐ母校を祝い

撫子の会々々長 金子修也

同じ撫子の校章をもつ豊島・追分・小金井3校の同窓会が一つになった「撫子の会」の母校、小金井校が、今年平成二十一（2009）年で、豊島校が池袋に創立してから100年、小金井校が開校してから50年という、誠にめでたい節目を迎えました。

この、まさに滔々と流れる大河・長河の歴史の途中には、1945年の終戦をはさんで戦中・戦後のきびしい時代がありました。戦争は戦地で多くの男性教師を失い、戦後、女性教師の育成が時代の急務になり、女子師範学校が拡張され、それにもない追分校が加わりました。そうした時代をのりこえ、いま小金井の地に創立一世紀、開校半世紀を迎えた母校があります。誠に慶ばしいことです。

いま母校は、歴史と香しい校風をそなえて輝いています。校風はその学校に伝わる文化的遺伝子です。風はそこにあつても見えませんが、ただよいとして感じとれます。そのただよいが子供たちの人柄・人格の基を司ります。香しい風は香しい人を育てます。そして文化として受け継がれ、伝統となります。母校は武蔵野の恵まれた環境のなかで馥郁と香る校風にそよぎ、後輩たちを育てています。何とすばらしいことでしょう。

私たち「撫子の会」は100年&50年の歴史を共有して、もはや豊島・追分・小金井の別をいうことなく、一体になっていると感じられます。母校と撫子の会の次の五十年、百年に向けて、この記念の年をとともにも祝いましょう。

お祝いの年に出版できた拙著

：母校の図書館に寄贈しました。

何という幸運でしょうか、共著による学校図書館向け学習絵本「くらしとデザインの本」全3巻が。去る四月に岩崎書店から発刊され、母校の図書館に寄贈することができました。

この本は、私が所属している団体「日本デザイン機構」が、小学校高学年～高校生を対象にして、デザインについて知ってもらおうと企画し、6人で共著したもので、私は第1巻「デザインのいろいろ」を担当しました。第2巻「デザインの現場から」第3巻「これからのデザイン」による構成で、第1巻は全巻の基本になる内容を担っています。書店市販では、セットと分冊のどちらでも購入できます。

一昨年、著作にとりかかるに際し、私は小金井校の図書館で学習絵本のあれこれ閲覧させていただき、また、小学生が習得する漢字についての資料もいただきました。

子ども向けの文章づくりは難しく、大人のことばや専門用語で言い抜けられないことが多々あります。そのため、概念や論旨を深掘し、それを子どもに伝わる表現にして埋めめもどす。私自身に



全3巻 揃定価 10,080円 (揃本体 9,600円)  
各巻 3,360円 (本体 3,200円)  
A4変形版 28×21cm 56～66ページ

とつて改めて考えるよい機会になりました。また、小学校低学年生ではありますが、孫娘との会話はいろいろとヒントになりました。

幸い、セットは(社)全国学校図書館協議会・日本学校図書館振興会による「学校図書館出版賞2009」を受賞し、周年記念を祝う母校への謹呈本に一輪の花を添えることができました。

(文星芸術大学デザイン教授)



# 創立百周年を迎えて

校長 長野 秀章

創立百周年・開校五十周年を迎える二十一年度がスタートして、早くも四ヶ月がたちました。今年度は学校運営の指針を「原点からのチャレンジ」とし、これを合い言葉にして、周年事業の計画、準備を着々と進めているところでございます。

昭和九年から行われています至楽荘生活が、今年も大きな成果を上げて無事に終了しました。昔に比べ泳ぐ距離と時間は短縮されたものの、六年生は参加者全員が大遠泳を完泳することができました。私は地元の漁師の方々が出してくれる船の上から、鵜原湾で躍動する子ども達に声援を送り、完泳証には百五十四名全員の名前を書かせていただき、一人一人に手渡すことができました。

豊島小時代の教員随想によりますと、かつての至楽荘生活には「都会っ子の軟弱さを鍛え直す」という男子部らしいねらいが記されています。超難関校といわれた、官立の東京高等尋常科（七年生高校）八十名の募集に一クラスで九名も合格者を出す傍ら、海の遠泳では府立一中（現九段高校）の生徒を悠々と追いついていく小学生、これが豊島の子どもだったそうです。つまり文武を超えた成長が、師範学校訓導と呼ばれた先達たちの描いた全人教育であり、子ども達の可能性は、この至楽荘生活を中心にして発現していったといっても過言ではありません。時代の違いはありますが、鵜原湾での先生方の熱心な指導、熱い言葉かけには、七十年以上の伝統を感じることがしばしばあります。

百周年を迎え、学校施設も改善されつつあります。

この夏休みには、食堂冷房化の工事が始まりました。これは、本校の教育後援会であるなでしこ育成会のご厚意、積み立てにより実現したものです。これにより、念願であった給食、保護者会等が、九月から快適に行われることとなります。

豊島の銀杏が横に立つ運動場では、二学期から、なでしこ運動会の練習も始まります。そして、銀杏の葉が黄色く色づき始める十一月七日には、百周年・五十周年を祝う記念式典が予定されています。会場の都合により、すべての同窓生の皆様にご来校いただくことができませんことを、まずはお詫び申し上げます。記念誌、記念グッズの作成等の事業は、順調に進んでいます。こちらにつきましては、撫子の会を通して、同窓生の皆様方にも提供させていただくことができると考えています。周年事業を含め、本校へのご理解、ご協力を、改めましてお願い申し上げます。

## 祝・百周年！

副校長 関田 義博

現在、小金井小では創立百周年・開校五十周年記念誌の編集を進めています。編集作業は教員全員で分担しています。先生方は、過去の学報等を調べながら、「へえ、こんなことがあったの」と、小金井小の歴史について勉強を始めているところです。

今年度の学校運営の指針は「原点からのチャレンジ」です。この指針は、学校の合い言葉と言えるほど、教員だけでなく児童、保護者にも浸透してきています。これまでの百年の中に、本校教育の原点があり、改めて過去を見直し、教育の原点を見いだし今後を生かしていこうというのが、基本的な考え方です。

教育の原点は、様々なところに存在しています。研究面では、先輩方が九年間取り組まれた、発展学習の研究に、教育の原点を見いだすことができました。児童の先行経験を重視し、児童主体の問題解決を大切にして学びを発展させる考え方は、現在の指導法にも生きています。

至楽荘生活にも、原点が存在します。子どもたちの可能性を信じ、ひとつ上達すること子どもたちをほめ、ときには厳しく、時にはあたたかく指導する先生方の姿は、今も昔も変わらないと思います。

教育実習も、原点の一つです。「学生を一人前の教師にして世に送り出したい」という共通の願いのもと、先生方は率先して指導法を学生に伝授します。先生方は、この教育実習、至楽荘生活、研究発表会、なでしこ運動会などで一つになり、学校としての結束を強めていきます。

そんな小金井小がまもなく創立百周年・開校五十周年を迎えます。記念誌の原稿は、お願いをした旧職員、卒業生、大学関係者など、多くの方々からどんどん寄せられ、貴重なお言葉、あたたかいメッセージが集まるところです。教育後援会である「なでしこ育成会」では、会長の佐藤万理さんを中心に、記念グッズを作成し販売して下さっています。卒業生の皆様方には、撫子の会を通して、記念グッズをお届けできるように計画を進めています。同窓会の皆様方とともに、記念事業を成功させたいと考えています。今後とも、よろしくお願い申し上げます。



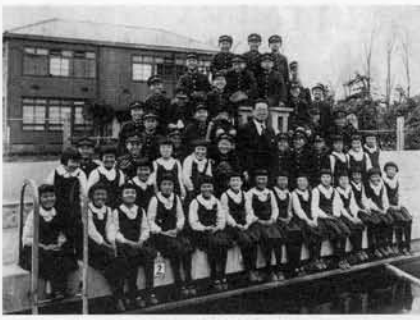
## 特集Ⅱ 恩師を語る

### 高橋早苗先生

秋山康男（昭和十七年豊島卒）

人生八十年、師と思う多くの方々にめぐり合ったが、一生忘れ難い方の一人が高橋早苗先生である。豊島師範附属小学の三、四年生の折の担任で爾来、先生が彼岸に行かれるまで御交誼を頂いた。

一、二年生の頃はほんやり通学していた私は、三年生になって若くてエネルギーに充ちた新しい先生の意欲的な授業に導かれて、学校へ行くのが楽しくなってきた。級友たちも元気に溢れて来たようだった。体操の時間、思いもかけず、野球や相撲だった。先生が投手で二手に分かれて級友は新品のグローブを手にして選手のもりにさせて頂き意気揚揚だった。相撲には女生徒も参加した。戦前の時代風潮からすれば大胆な試みだった。教室でも各人が鼠肩の力士の醜名（四股名）を選んで先生に届け、その名で試験の成績星取表が教室に張り出された。上手に生徒の競争心を刺激するやり方に皆、興奮した。



柔道で鍛えた立派な体格の先生は怒ると怖かったが体罰は誰も受けなかった。月に一度、嫌いなものを持参するお弁当の日を作って生徒を試されたが、本当に食べられる生徒にはご自分のお采を分けて下さる優しさがあった。

数人の級友と一緒にご自宅に呼んで頂き近くの戸山ヶ原の（高田馬場）で遊んだ懐かしい思い出もある。ガスタンクと仇名されていた通り、一生エネルギーに満ちておられた。晩年、築地小学校時代、全国小学校校長会長として中央教育審議会に参加された頃は、小学生の頃から一貫した変わらぬ教育理念を説かれ、信念の方だった。個人的な思い出も多くなるが昔教室の入口に懸けられた「訓導」という先生の呼び名通りに人を導かれた方と思う。

### 高橋早苗先生

大島達治（昭和十七年豊島卒）

僕の右手薬指の先は妙に曲がっています。四年赤組捕手の時の突指（つぎさき）をその俣にしたのです。先生から指名された此のポジションを、社会人でも通しました。若干の運動神経をマジメだけが取柄のひ弱なチビに、捕手の適性を認めて支援して下さったのでした。私の五年修了記念の色紙には「剛毅」と揮毫されており、努力目標として、今でも拳々服庸しています。

同級諸君の殆どがスポーツでのスパルタ教育の思い出を持つのが、高橋先生でせう。「梅雨どきに生まれて早苗と名付けられた。日本の田植は大切なのだ」と印象が僅かに残る他は、泳げないのにプールに放り込まれたり、戦争下の勇敢な兵隊を仕立てるのが小学校教育の使命でしたね。

その中で、成田千里校長を戴いたと豊島の、「机上よりは実地だ」と三壯を経営された着眼と手腕には敬服の外なく、これを正確に承継した高橋先生であった、と今にして判ります。豊島師範の後国学院大学に学ばれ、精神鍛錬に主眼を置く姿勢を、信念

を持って個性豊かに貫かれたと思うのです。

その故に、父兄の間では毀誉褒貶相半ばし、私の母など「高橋先生はキラリ」と百四歳天寿を終える迄繰返していました。それはそれとして、生徒の個性を把み教師の人格を通じて将来に伸ばす教育が、ゆとりと平等の教育。からは望むべきもない現在、個性豊かに、自信に満ちた生徒を育てて下さった。豊島の高橋早苗先生。に今更ながら尊敬追慕の念を禁じえませんね。

### 「恩師を語る」

川辺正行（昭和十九年豊島小卒）

昭和一九年三月卒業の第三三回赤組の担任は阿部義理先生であった。白組は小山昌一先生、緑組は辻野鯛一先生、御三人とも素晴らしい教育者であった。私達は満洲事変が勃発した年に生まれ、日中戦争が始まった翌年に豊島小に入学し、太平洋戦争が始まったのは小学四年であった。先生方は軍国日本の教育のあり方に苦勞されたと思うが、私達小学生は無邪気なもので、休み時間には「水雷艦長」をして遊び、軍隊調の体育も武道も楽しくやっていた。担任の阿部先生はいつも背筋が伸び、シャキッとしておられ、視線は厳しいが頬には笑みを浮かべて、我々の向学心を高めようと努力しておられた。私達は阿部先生が好きだった。

一度だけ厳しく叱られたことがあった。校長先生が替わられて初めての式典で教育勅語を奉読されたとき、その声が可笑しいと、クスクス笑ったクラスメートがいた。式典が終わって教室に帰ったとき、阿部先生から大変な爆弾が落ちた。「笑った者は前に出よ」と言われ、前に出た七、八人の者はビンタ（平

手頼打ち)を受けた。阿部先生のピンタはこれが最初で最後であった。

社会人になって何度となく「教育」の問題に関心を持った。「ツメコミ教育は悪い」と言われ「ゆとりの教育」が提唱され、また修正された。しかし「学習意欲」が高ければ「ツメコミ」にはならない。「学習意欲」は「わかる授業」すなわち教師の「授業能力」に依存する。私は豊島小で世界一の初等教育を授けていただいた。どのようにして社会にお返しするか。それを思うたびに阿部先生、小山先生、辻野先生の顔を思い浮かべた。

## 小山昌一先生

早川 裕夫 (昭和十九年豊島小卒)

豊島師範学校長成田千里の、自然とのかかわりの中での教育を実践する考えに賛同した小山家は小山村(現東久留米市)の土地を提供し、昭和十一年、農園の「成美荘」が生まれたのです。おかげで、海の「至楽荘」山の「一字荘」と併せ、生徒は年間を通じて自然に親しむことができたのです。小山先生は、昭和十四年豊島師範付属小学校に着任され、私たち白組を担当されました。その後、番町小学校校長から全国連合小学校校長会会長となり、また文部省視学に任じられ、小学校社会科学習指導要領をまとめられるなど教育界で活躍された後、



財団法人豊島修練会成美教育文化会館の理事長・付属幼稚園長に就任されました。

先生のあだ名は「ブル」、当時の漫画「のらくろ」の「ブル聯隊長」そのものでした。戦時中でしたから、戦争ごっここの隊長として私たち生徒の先頭に立ち、野山を駆け回ったのです。まだ独身でしたから、PTAの母親たちに頭が上がらないこともあったようです。卒業してからクラス会にお招きし思い出話をし、また私たちの人格形成の旧恩に感謝したものです。残念ですが先年お亡くなりました。

菩提寺は、東久留米市小山二丁目の大円寺です。(写真は、朝日新聞企画の健康優良児小規模小学校全国一位表彰記念です。)

## 集団疎開の思い出

平井多加子 (昭和二十一年豊島卒)

「欲しがりません、勝つまでは」をモットーに、豊島師範附属小の私たちも、あの激動の昭和の一ページを担ってまいりました。

学童集団疎開の深い意味もよく理解できないまま、私は昭和十九年八月、まるで箱根「一字荘」に泊まりに行くような喜々とした気持ちで、山形県上の山に向い、翌終戦年の十月に帰京いたしました。疎開地からやっと辿り着いた池袋は、一面焦土と化していました。その焼野ヶ原に鉄筋の附属小の校舎だけがすくと建ち、その中央に「撫子」の校章が輝いているのを仰ぎ見た時のあの感激は、六十有余年経た今日(こんにち)でも鮮明に脳裡にやきついております。

家族と離れての一年二ヶ月の集団生活では戦時中でなければ出来ない体験も多々いたしました。(リ

ヤカー引き、薪拾い、虱取りなど)しかし非常時ではあったものの、先生方のご指導のもと、よく学び、またよく働きました。食糧難も附属と云う立場からでしょうか、さまざまの方のご尽力で乗り越えられました。代用で物を創り出す知恵や、工夫も自然に培われたと思います。

このようにして過ごした集団生活でしたが、何と云っても最高の宝物と云えるのは、寝食、苦楽を共にした友との友情です。そのつよい絆は、いままなお続いております。これ偏に付属小と云う、非常に恵まれた環境の中で育まれた賜物と感謝し、集団疎開生活の思い出の一片といたします。

## 片峰三雄先生の思い出

村山和彦 (昭和二十二年豊島小卒)

もう七十年近い昔のことで、記憶が定かではない状況です。

私は昭和十年四月七日生まれなのですが、親が落第しても良いようにと、届けを四月一日にしてしまいました。当時はいい加減でした。今では同級生で一番若いと威張っていますが、小学生の時のハンデはきつかった。走ればビリ、相撲は出ると負け、プールに入ると沈むだけ。そうだ思い出した。先生に後ろから押されてプールに落とされたのだ。勉強も多分しようがなかったのでしょう。親が幼稚園に行かせないことを教育上の方針としていたので、小学校に入ったときは異国に来たような心細さを覚えています。緊張の余りお漏らしをして、余計小さくなっていました。

そんな私が、片峰先生が教えてくださったことで、一つだけ強烈に記憶していることがあります。

「君達は子供ではない。一人前なのだ。」国民学校一年生にこんなことを言う先生がいるだろうか。電車通学をする時に、「目上の人には席を譲れ。」国民学校一年生の目下なんか電車の中に居ない。「濡れた傘は両脚の間に挟め。周囲の人に濡れた傘を触れさせてはならない。」そうか私は一人前なんだと、武蔵野線の東長崎から池袋まで、短ズボンの両脚の間に気持の悪い濡れた傘を挟んで、座ると譲るのが恥ずかしいから立ち放しで、誇り高く通学しました。片峰先生、申し訳ありません。沢山のことを教えてください。でもおかげさまで、「誇り高くあれ。」は、出世の妨げにはなりませんが、身に付いています。

## 菅野信正先生

村井徳久（昭和三十二年豊島小卒）

「プールサイドで竹箒」それが恩師菅野信正先生に生徒皆が強く持っている印象です。我々男子は赤禪でした。元オリンピック候補強化選手だった先生は水泳の教え方に個性があり、手だけで泳げ、足だけで泳げと途中プールの端で休んでいる者が居れば竹箒で泳げ泳げと突きました。時には誰かが溺れそうになっても、どうなって沈みそうになるか皆見ておくと今では考えられない指導をしていました。もちろん先生は危なくなる前に助けますが、どうしてこんなことを教えるのだろうかという時はわかりませんでした。鶴原の海で大波遊びをしたときその指導が大きな意味を持っていたことを学びました。手を繋ぎ足だけで泳ぐと大波はワクワクする体験で、それは万が一の水難救助にも活かされるものです。水を知っている先生だから遊びの中に

取り入れて水の怖さや泳ぎの技法を教えてくださいました。教室で生徒を叱る先生の大きな声は校庭中に聞こえそうでした。ある時、先生は人を指差した生徒に物ではないと叱りつけました。喧嘩はいつも両成敗でした。悪さをする生徒は容赦なくデコぱっちんと頭グリグリ、これが本当に痛かった。それでも繰り返し悪さをしても先生は必要以上には叱りませんでした。子供にはそれぞれ家庭の環境がある、優劣をつけることは決してしてはいけません。父兄に対しても迎合することなく生徒の姿を伝える先生は我々の多感な時期を大きな懐で指導してくれました。先生と生徒の「あの頃」がいつでも戻る場所であること、六十五歳になった今も菅野先生に感謝しています。



追分小学校初代の校長先生

## 飛松正校長先生

西山マサ子（昭和三十二年追分卒）

昭和二十年四月に追分小学校が誕生、昭和三十六年三月に閉校するまで十六年間、開校から閉校まで

一代限りの校長先生であられました。ご立派な体格、風貌、子供心に素敵で優しい感じを受けておりました。小人数（学年二クラス）でしたので全校生徒の顔を覚えられ、兄弟関係まで熟知しておられました。

九十三歳になります私の母と昔話をするとききまって追分時代の話に花が咲きます。兄が追分小学校を受験し、飛松校長の面接を受けた際、兄は

校長室に置かれた大きなスピーカーなど珍しい器具に興味を持ち「これ何あに、どうするの？」と尋ねたそうです。母は大変恥ずかしく思ったのですが、飛松校長は「この子は何か持っているの？上手に伸ばしなさい」との言葉を頂いて、嬉しくなったそうです。その兄岡本敏一は、後に広島大学教授になりました。

昭和三十八年三月、私が学芸大学を受験しましたことを追分小で、六年間担任して頂いた腰山太刀男先生に報告しますと、社会では何を選択したのか聞かれ「日本史です」と答えますと「分かった」と電話を切られました。それから間もなく、飛松先生から日本史は八十六点、数学Iは九十点、他教科も八十点以上だから合格間違いなしとの電話を戴き大喜びをしました。附属の校長先生は大学の教授と兼任でした。今度は保証人になってあげますよとの連絡を戴き、この上もなく有り難く感謝の気持ちで一杯でした。しかし、小金井貫井南町に伯母が長年住んでおりましたので丁重にお断りしました。その





伯母前田須磨は、つい先日、八月十七日に百歳を目前にして亡くなりました。

大学一年の教養科目で日本史を選択し、飛松先生の講義を受けました。初めての講義の日、先生は高さ二十<sup>七</sup>程の教壇から降りてこられ「選択してただね、ありがとう」とニコニコと小声で言われました。隣にいた友人たちは不思議そうでした。評価「A」を頂いたの言うまでもありません。

一人の児童であった私に、これほどまでに面倒を見て戴き感謝の気持ちは忘れることはありません。

## 平松讓先生

永藤苗里（昭和二十七年追分卒業）

平松先生が学芸大学附属追分小学校に就任なさったのは、今から半世紀以上も前のことです。

新任のご挨拶をなさった時のあの笑顔は今もまったく変わらず、私の脳裏に焼きついておりません。

しばらくして、先生はフランスへ行かれることになりました。上野の精養軒で送別会が開かれ、飛松先生、松村先生、中村先生等追分の先生方とその他多くの方々がご列席なさいました。その折、私は在校生代表として、お祝いを申し上げました。想い出の一ページです。私の妹も弟も先生のご指導を頂きました。

勲三等瑞宝章を受章なさり、日本芸術院会員、日展顧問等々、数々のご立派な肩書きをお持ちになられます先生に、兄弟でお世話になれましたことを誇りに思っております。

実家には先生からいただきましたヨーロッパの風景「ノルマンディの聖堂」が飾ってあります。我

家も念願かなって、先生の作品「赤レンガ倉庫」を飾ることが出来ました。三越本店でなさった個展でミレニアムも記念して求めました。

平松先生のバラの絵も三宅島を描かれた作品も大好きです。

大事なお役、展覧会、個展等、精力的にこなしておいでになる先生にただただ尊敬の念でいっぱいでございます。昨年（二〇〇八年）も三越本店で個展をなさり、大作をたくさんご出品になりました。相変わらず素敵な笑顔でうれしゅうございました。先生、益々お元気で素晴らしい絵を後世に残して頂きたいと念じております。

## 大島富明先生

小山 泰（昭和二十九年追分小卒）

私達大島学級の生徒は、かけがえのない貴重な小学校時代を過したと思います。大島先生はしっかりとした哲学と信条に支えられた教育を行われ、私達は深い尊敬と愛着をもつことが出来たからです。

先生は国語・算数・理科の授業に特に力を入れられ、道徳教育も大切にされたと思います。日記や作文では、具体的に文章の批評をされ、算数では自力で問題を解く訓練をされました。私達に問題を出し、「出来たら帰って宜しい」と言われて、居眠りを始められます。間違った答を持って行くと、答の上に斜めに赤線を引き、また眠ってしま



われるのです。先生の理科

の授業は、論理がしっかりしており、私達は安心して先生の語られたことをそのまま信じていることが出来ました。自然の観察を重要視され、夏休みの宿題は、月の満ち欠けの観測、昆虫や植物の採集や観察を奨励されました。私が好きな昆虫の絵をノートに描いていると、「実物を見ないで描いては駄目だ」と言われました。

厳しい先生は、私達が悪いことをすると近くにあるものを使って（無ければけんこつで）私達に「お仕置き」をされるのです。私達はその理由をそれぞれ自分で考えなければなりません。先生はよく「善玉」と「悪玉」の話をされましたが、これは先生の人間観を表わしていたものと、私は今考えています。

先生は教育の振興にも努力され、激しく働かれたので、六十四才の若さで他界されました。先生は昭和六十年五月二十一日に亡くなりましたが、翌年には勲五等瑞宝章を受けられました。

## 伊藤民男先生

三嶋 明（昭和三十四年追分小卒）

「三嶋君は、もう大丈夫です！」

昭和二十八年の十一月十五日、一年生の時の学芸会の事であった。僕達一年生の劇が終わり、母が僕を連れて、担任の伊藤先生のとこに、お礼に伺った時の先生の一言であった。「僕もビックリしました。彼があんなに大きな声で、皆の前で言えるなんて。お母さん『三嶋君はもう大丈夫ですよ』」

僕は、母以外の人から、初めて本気で褒められ、そして「なあんだ、やればいいのか」と奥の方で、心が定まったような気がした。

虚弱体質で幼稚園もまともに一週間通えなかった僕を憂いた両親は、当時流行っていた「アデノイドと扁桃腺の除去」を考え、手術は一年生の夏休みに、全身麻酔で行われた。

手前から十一時の方向に、列車はゆっくりと蛇行しながら緑の草原の地平線に差し掛かった頃からは「涙をいっぱい溜めた母の顔」と病院特有のクレゾール液の臭いが迫ってきた。手術は死の一步手前まで行き、瞳孔反応があり、蘇生したと後で聞いた。その手術のお蔭か、段々元気になる僕を見て、母は「端役でも」と伊藤先生に懇請したらしい。

クラスメートのTさんの著書の中に「他人の記憶の中に生きている限り、その人は生きている」の趣旨の文章があったように思うが、伊藤先生はクラス全員の中にずっと生きていくと感ずる。特に、僕はこの数週間、先生と会話を楽しんでいた。



## 両角亮治先生の思い出

宮田雄史（昭和三十七年豊島卒）

我々五十一回生は昭和三十七年に豊島小学校を卒業した。今年還暦を迎える年回りである。先生には小学四年から六年という、少年・少女期の終わりの時期をお世話になった。同級会には、ほとんど全て出席していただき、一同、先生のお元気なお顔を

拝見することを楽しみにしていたのだが、本年四月今年度の同級会の準備連絡をしていた幹事のころへ突然の訃報が届いた。改めてご冥福をお祈りするとともに、お世話になったお礼を述べたい。

さて、先生のご専門の理科の思い出である。五年生の時であったか、校舎南東の二階の角の理科室、午後のはじめの授業で、季節は覚えていない。「滑車」の実験の授業の時の事である。班ごとに分かれて、「定滑車」と「動滑車」の働きを、錘とバネばかりを使って確かめる授業だった。授業も半ばを過ぎたころ、ある班から「バネばかりの重さも加わるのではないか？」という疑問が出された。この疑問に対して、先生は我々の討論に任せて、直接的な答えを示されなかった。結局その日は、下校時刻近くまで授業が伸びても結論は出ず、次回に持ち越されたのだが、とても楽しく興奮したことを覚えている。教科書の記述ではなく、討論によって問題が解かれて行く面白さを体感した初めての経験ではなかったろうか。少年期にこういった経験をさせて頂いた事を深く感謝している。

## 私の恩師

鈴木弘（昭和四十一年小金井卒）

私の恩師は一年生から三年生の担任であった村上稔先生です。

私は昭和三十五年小金井小学校として二期生として入学しました。その当時の小学校は校舎自体建設途中の未完成のもので、校庭は夏になると体が隠れてしまうくらいに背の高い雑草が生い茂るといった武蔵野の自然の中の学校でしたが、そんな

未開地とでもいえそうな学校に追分小学校から赴任してこられたのが村上先生でした。

私は小学校四年生以降、先生には何ら便りも出さず礼を失した形で四十五年も過ごしてしまいました。昨年クラスメートだった横田さんから誘いがあり、有志数名と九月に先生のご自宅に伺いました。

先生は四年前に下咽頭手術を受けられ、残念ながら声を失われてしまいました。筆談等で楽しく昔の思い出を振り返る事ができました。

授業が始まってからも教室に戻らない私達を優しく草むらの中まで迎えに来てくれ、大きくて元気に見えた先生は、実は、担任当時もお体の調子が思わしくなく教室の隣の部屋にベッドを持ち込んで、時々横になっていらっしやっただけのこと。この時初めて知りました。

小学校教育に情熱を持って当たられていた事を改めて知り、胸が熱くなる思いがしました。

これまで多くの病と闘ってきた村上先生、どうぞお体に気をつけていただき、まだまだご活躍していただきたく思っております。



村上先生訪問



## 担任の先生方の思い出

森本由起子（昭和四十二年小金井卒）

小金井小学校では、三人の担任の先生方にご指導いただきました。

低学年の時は、榎本隆治先生でした。

先生は、話を聞くときの姿勢や発言する時の約束等、学校生活の基本をいろいろと教えてくださいました。一年生の時だったと思いますが、教科書の文章をノートにきれいに写す学習がありました。毎回、判を押してください、みんなが一生懸命に取り組みました。体育の鉄棒の学習では、先生が示範をされ、動き方を教えてくださいました。

中学年の時は、高田美枝先生でした。

先生は、子どもたちの自主性を伸ばそうとされていたと思います。学校生活での出来事なども、子どもたちがどうしたらよいか考え、話し合うようにされていました。家庭学習も、与えられた同じ課題をするのでなく、自分で課題を見つけて学習するものでした。文集作りでは、みんなに、鉄筆で原紙を切ることをさせてくださいました。

高学年の時は、長谷昭先生でした。



高田先生と

先生は、野球がお得意で、プロになられたかもしれません。体育では、ソフトボール、サッカー、ハンドボールなど、いろいろなボール運動を教えてくださいました。子どもたちも、休み時間や放課後、ドッジボールやサッカーなどをして、よく遊びました。箱根の一字荘では、夜、先生が怪談を語ってください、みんなが楽しみにしていました。

先生方のご指導いただき、楽しい小学校生活を送ることができました。ありがとうございました。



長谷先生と

## 恩師のあとを追って

児玉 望（昭和四十六年小金井卒）

私は、都内の公立小学校に勤務しています。私がこの仕事に就いたのは、附属小学校でお世話になった腰山先生と大場先生の影響がとてもあります。

腰山先生には、三、四年、ギャングエイジの楽しい時期を担当していただきました。クラスがとても仲が良かったです。また、当時はマイナーだったサッカーを教わり、校庭を走りまわっていた思い出があります。



一字荘での登山

五、六年の担任は、附属小に赴任したての大場先生でした。だんだん生意気になった私は、よくしかられませんでした。でも一緒にやったサッカーやソフトボール、友だちや先生と過ごした至楽荘や一字荘の宿泊生活は、今でも忘れられません。

学校生活以外でも、友だち何人かと新婚の先生のお宅におじゃまして麻雀を教わったこともありました。卒業してからクラスの何人かとスキーに連れて行っていただいたこともありました。

そんな楽しい小学校生活を、担任した子どもたちにも味あわせてあげたいと思い、この仕事を選びました。私は、学大に入学、当時同じキャンパスの大場先生にお会いし、悩みを聞いていただいたこともありました。就職してからも一杯飲みながら、仕事上の愚痴を聞いていただいたこともありました。

今でも大好きな体育科教育を研究し、（腰山先生も大場先生も体育を研究なさっていました）子どもたちに体を動かすことの楽しさを教えてくださいました。また、今年も大場先生を見習って、中一の卒業生を連れて、二泊三日の旅行に行ってきました。

平成二十一年五月二十三日開催

## 第七回総会報告

副会長 川田紀雄

今回も小金井母校食堂二階を会場に、事前四十四名、当日十一名の参加を得て、総会・懇親会が開催されました。

本年十一月七日(土)の母校創立百周年・開校五十周年記念式典開催に際し、同窓会として最大限の協力を進めることが話し合われました。詳細については理事会に委任され、学校側との話し合いの中で内容が決められていくこととなります。記念誌出版、記念グッズ製作への協力、同窓会からの記念植樹などが中心になると思われます。

ホームページについては開設後の活性化があまり進んでいないため、小金井校卒業の同窓生を中心に委員を決め、具体策を講じることになりました。また、百周年を目処に平成十四年版の会員名簿の



懇親会風景

改訂も行なうことが決定されました。続く懇親会も和気あいあいの雰囲気の中で行なわれ、小金井校卒の同窓生への参加呼び掛けが少しずつ浸透して、メンバーの若返りと同時に参加者増加の兆しを感じられる会合となりました。

### 第七回総会に出席して

●市原みどり 昭和四十二年小金井卒

卒業以来初めての同窓会出席で、最初は緊張状態でしたが、懐かしい方々との再会で気持ちもほぐれ、更に年代を越えた交流もできました。食事もとても美味しく、幹事の皆様に感謝するばかりです。

●山本信義 昭和五十一年小金井卒

同期で悪友の野久尾君が理事に就任、また次男が同窓生になった事もあり、会設立時以来の出席でした。諸先輩方の話を伺い、強い絆で繋がっている三校の歴史と創立百年の重さを改めて実感しました。

事務局の活動に感謝します。



懇親会風景

### HPについて

HP担当・副会長 佐々智樹

撫子の会会員の連絡と情報の伝達を円滑に行うためにHPを本格的に始動させるべく準備中です。理事の藤田由美子さん(三十九年卒)をはじめ新たに、保坂健二さん(五十二年卒)、吉川勝さん(五十四年卒)、井口尚子さん(五十四年卒)、更にカメラマンとして鈴木弘さん(四十一年卒)という心強いメンバーがそろいました。編集長は保坂健二さん、デザイン更新担当は井口尚子さんという布陣で内容を充実させるべく全員はりきっています。

創立百周年を迎える伝統のある学校ですので次にあげるポイントを大切にしていきたいと思えます。

まずは卒業生と先生との親睦を深めること。そのためには各クラス単位の情報と担任をふくめた教職員情報を充実していきたいと思っています。懐かしい先生方にとっても有意義な撫子の会でありたいと思っています。

それから、先輩から若い卒業生に送るエッセイのリレーを始めたいと考えています。それぞれの分野で活躍する先輩たちが贈るメッセージ。会員一人を超えて大きな同窓会ならではの充実したリレーにします。

さらに、学校の歴史、至楽荘、一宇荘の生活、遠足、運動会、各学級のクラス写真などなど、写真ギャラリーを設け、見ても楽しいHPにしていきたいと思っています。是非思い出深い写真の提供をお願いします。

最後に撫子の会特製グッズを作り、このHPで販売していきたいと計画しています。どうぞお楽しみに。HP班参加者も随時募集中です!

なお、撫子の会HPのURLは  
<http://www.nadeshikonokai.jp>です。

## 創立 100 周年記念販売のご案内

### お知らせ

母校なでしこ育成会が中心となって創立百周年記念品を作成・販売することになりました。この事業の収益は子供達の日常活動に還元されることと、同窓会としてそれに協力し、まとまった数量を購入します。校章入りのキーホルダー、ストラップ、バスタオルやエコバッグなどです。皆さんへの頒布方法はこれから決定して行きます。

名簿については各学年の世話役（詳細未定）を中心に情報を収集して行き、年内を目処に発行したいと考えています。現在、そのための準備作業を進めています。

### 革ストラップ

<各革6色・茶黒赤青黄緑>

¥300



### キーホルダー

<各革6色・茶黒赤青黄緑>

¥400



### なでしこストラップ

<真鍮製>

裏面文字入り

東京学芸大学附属小金井小学校  
創立 100 周年



¥400

### パスケース

<革製 各革2色・赤・黒>

¥1000



### えんぴつ

三菱鉛筆ユニB・1 ダース  
12本入り

¥1100



文字入り>東京学芸大学附属小金井小学校  
創立 100 周年

### バスタオル

60cm × 120cm

¥2000

### フェイスタオル

33cm × 80cm

¥700



### エコバック

<2サイズ:大・小、各2色・水色・黒>



大 ¥700

小 ¥600

46cm × 43cm × 43cm  
小サイズは取納ポーチ付  
36cm × 36.5cm

### 祝いの御礼

豊島小学校を昭和十八年に卒業された三三二会の方々から創立百周年の祝い金として五万円が同窓会に寄付されました。また、二百十九名の方々から四十六万四千六十円の寄付を頂きました。心から厚く御礼申し上げます。ここに報告いたします。

### 好評だった会報

第七回総会の出欠はがきの中から

：抜粋させて頂きました

#### ●内野雅男 昭和十七年豊島卒

今回の会報9号の8頁に小生の写真が載っているのビックリしました。(右側)有難うございました。

#### ●清水昭雄 昭和十九年豊島卒

池袋へは時々立寄りますが今回の会報を興味深く拝見しました。

#### ●大島昭三 昭和三十年豊島卒

いつも同窓会の素晴らしい会報を送って下さり有難うございます。「豊島小」には次兄・達治(今回の会報の「昭和の撫子」に写真が載っていました)、次姉・好子(四年生まで在籍)と、三人もお世話になり、心のルーツとなっています。

#### ●奥貫順子 昭和三十四年豊島卒

会報誌興味深く拝読致しました。

#### ●高嶋功郎 昭和二十五年追分卒

会報懐かしく拝読致しました。追分小出身の為に、本郷界隈の記事は興味大でした。小生、金子会長とはかなり親しくお付き合い(遊び友達)して居り、当時お母様とオジイサンとも交流していたもので、正確ではありませんが、森川町時代を思い出しました。自分の勝手ではありますが、本来の母校を失って、やはり何とも言い難い、小学校の軌跡を求める気持ちです。年ですネ。

#### ●井手正子 昭和二十六年追分卒

撫子の会の会報、なつかしく、楽しく読ませて頂きました。

#### ●関ゆう子 昭和四十二年小金井卒

会報9号、とても読みがありました。隣のクラスの小松君が寄稿されているわ、一年上の大秀才だった川田さんが活躍されているわ：平松先生がご健在、すごくうれしい記事で、：感想ばかりになってしまいま



すが。昭和五十一年の湊さんの活動報告、うらやましいなあ……。

●河村直美 昭和四十二年小金井卒

会報9号拝読させていただき、「特集」訪ねてみようでは、母校の歴史に触れて感動いたしました。どの記事も充実した内容で、母校への思いの溢れる素晴らしい冊子でした。ありがとうございます。

●橋口 薫 昭和五十一年小金井卒

「会報」いつも懐かしく、楽しみに読ませて頂いています。

●原藤 緑 昭和五十七年小金井卒

同窓会誌を楽しく読ませて頂きました。卒業以来訪れていないので、大変懐かしかったです。私が在学していた頃は、本当に一面グラウンドで、それはそれはとても楽しい小学校生活でした。その頃の「野生児」が人生における自己形成に大いに影響し、また役立っています。今は少しはグラウンドも狭くなつてしまったのでしょうか。自分の子供も是非同じような素晴らしい小学校生活を小金井小で送らせてあげたいです。

前号の会報に、文集「昭和の撫子―戦中戦後七十年―」を紹介させていただきました。ご注文があり、また小金井小学校五年生の乙幡幸千恵さんとお母様からは、次のような感想カード頂き嬉しいことでした。

山内幸子 (昭和十七年豊島卒)

山内幸子様へ

●資料と本を送ってくださってありがとうございます。昔の写真などがあって、とてもおもしろかったです。

(五一四 乙幡幸千恵より)

●この度は資料までお送りいただき、本当に有難うございました。娘は、写真をくいいるようになっておりました。

小金井小学校にご縁が有り、大自然の中にある至楽荘・一字荘にお世話になる度に、この素晴らしい伝統

を継承してこられた先生方や卒業生、そのご父兄の方々に感謝の気持ちで一ぱいでございます。送っていたいた御本を読み、さらに深く感謝いたしました。

今年、小金井小学校は百周年を迎えます。娘も本や資料を見て百年の重みを感じたことと思います。どうぞ今後とも小金井小の子供達をお見守りくださいませ。皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

(母 乙幡貴美子)

撫子の会理事 宮坂庸也さんを悼む

藤澤治美 (前理事、昭和二十六年追分卒)

終戦の年に小学校一年生であった私たちの同期生宮坂庸也さんが七月末に逝去しました。享年七十歳。まだお若いのです。残念でなりません。つい先だつて五月二十三日の撫子の会総会でお目にかかったばかりでした。撫子の会創成期に追分出身の幹事の一人として私は、平成四年版と平成十四年版の二つの名簿発行に関らせていただき、先輩諸兄姉の皆様と共に、同窓会を円滑に継続して行く為の母校を愛するボランティアという気持ちの大切さ、困難な諸事情を乗り越える心の大きさをも学びました。平成十五年、居住地の町議会議員選挙に立候補する」に当り、後のポジションをお願いしました。気持ちよくなごやかにお役目を果たして戴きました。心から有難く感謝の気持ちでいっぱいになりました。この上は、天国でゆっくりお眠みいただき、御家族様のお幸せと共に、撫子の会の弥栄も見守ってください。合掌



左から二人目です

編集後記

編集担当 西山マサ子

今年十一月七日に創立百周年・開校五十周年の記念を迎えるに当り「恩師を語る」を特集テーマに本号を発行することになりました。

藤田前会長のご協力もあり、多くの原稿が寄せられました。寄稿されました方々に厚く御礼申し上げます。この特集テーマはしばらく続けていくつもりですので、どしどし寄稿の程宜しくお願い致します。

「恩師を語る」の原稿を拝読しまして、望ましい教師のあり方、教師像が浮かび上がってくるようです。また、月並みな表現ではありませんが、豊島小学校や追分小学校から小金井小学校へと受け継がれてきた「輝かしい伝統」と「良き校風」をこれからも大切にしていきたいものです。「寄稿のお願い」会報の紙面をより気楽に幅広い年次の方々に楽しくお読み頂くために年間を通して、いつでも寄稿を受けることに致します。同期会、クラス会同窓の仲間の集まりなど、写真に説明などを添えてお寄せ下さい。お待ちしております。

「撫子の会」会報・第十号

発行 平成二十一年九月

この号の編集担当

金子修也 (昭和二十五年追分卒)

西山マサ子 (昭和三十三年追分卒)

高木織江 (昭和四十一年小金井卒)

印刷 山信印刷 (山佐福栄・昭和二十八年追分卒)

投稿・寄稿 問い合わせ先

川田紀雄 電話 (042-324-9912)

西山マサ子 電話 (03-3815-9619)

高木織江 電話 (045-961-2318)

同窓会事務局 東京学芸大学附属小金井小学校内

住所 〒184-8501 小金井市貫井北町四丁目一番一号

電話 042-329-7823 Fax 042-329-7826

撫子の会郵便振替口座

番号 00100-8-709121 加入者名: 撫子の会